



DAISEN
CITY

だいせん

市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS

子ども樽みそしコンテスト

内 容

CONTENTS

- 新議長・副議長、議会構成 2～3
- 第3回定例会の概要 4～5
- 一般質問 6～8
- 先進地に学ぶ 9～11
- 委員会審査のあらまし 12～13
- 市政懇談会での意見・回答 14～15
- 編集後記ほか 16

▶ 新しい議会構成がスタートしました ◀

10月4日に第5回臨時会が開催され、議長と副議長の選挙が行われました。単記無記名投票の結果、金谷道男議員24票、佐藤文子議員2票となり、金谷道男議員が議長に選出されました。副議長は古谷武美議員14票、渡邊秀俊議員12票となり、古谷武美議員が副議長に選出されました。

また、各常任委員会と議会運営委員会の委員の選任および大曲仙北広域市町村圏組合など一部事務組合への代表議員が選出されました。

追加提案された議会選出の監査委員として、秩父博樹議員が選出されました。

議長就任あいさつ



議長
金谷道男



副議長
古谷武美

市民の皆さまには、日ごろより市議会に対し温かいご支援とご理解を賜り、心より御礼申し上げます。去る10月4日の第5回臨時議会におきまして、議長に就任させていただきました。身に余る光栄に存じますとともに、その職責の重大さを痛感しております。

大仙市は誕生15年目になりました。この間、人が活き人が集う夢のある田園交流都市建設を目指し、市長と議会がそれぞれの役割を果たしながら市政を推進してきました。しかし、人口減少と経済・社会の多様化、複雑化は想定以上で、加えて大規模自然災害にも見舞われ、市政の解決すべき課題は、産業・教育・福祉・環境・社会資本整備等あらゆる分野でいまだ山積しております。

この課題解決に、議会が果たすべき役割と責任は重大だと思えます。議会は市長としっかりとした議論を重ね、地域の隅々まで届く、市民のための市政を実践していくことが、課題解決と明日の大仙市発展につながるものと確信しております。

大仙市には、議会基本条例という議会活動の羅針盤があります。私はこの羅針盤を基に、議員各位と力を合わせて「チーム大仙市議会」の力量を高め、発揮し、市民の負託に応えられる開かれた議会づくりに全力で取り組みます。結びにあたり、今後とも大仙市議会に對しまして、一層のご支援、ご協力、ご鞭撻をお願申しあげまして、就任のあいさついたします。

議会の構成

議会運営委員会

◎橋村 誠

○佐藤 隆盛

富岡 喜芳

小松 栄治

佐藤 育男

児玉 裕一

佐藤 清吉

鎌田 正

大曲仙北広域市町村圏組合議会

議員

金谷 道男

佐藤 文子

橋本 五郎

鎌田 正

富岡 喜芳

佐藤 芳雄

渡邊 秀俊

橋村 誠

大仙美郷介護福祉組合議会議員

金谷 道男

小笠原昌作

高橋 敏英

挽野 利恵

大山 利吉

秋田県後期高齢者医療広域連合議会議員

金谷 道男

民生委員推薦会委員

高橋 徳久

小笠原昌作

青少年問題協議会委員

富岡 喜芳

都市計画審議会委員

大山 利吉

高橋 徳久

佐藤 育男

議会選出監査委員

秩父 博樹

議会改革推進会議

秩父 博樹

佐藤 育男

佐藤 芳雄

佐藤 清吉

後藤 健

小笠原昌作

佐藤 文子

石塚 柏

秩父 博樹

後藤 健

佐藤 育男

佐藤 芳雄

佐藤 清吉

児玉 裕一

佐藤 育男

後藤 健

小松 栄治

小笠原昌作

藤田 和久

石塚 柏

佐藤 隆盛

三浦 常男

○挽野 利恵

○三浦 常男

佐藤 隆盛

藤田 和久

小笠原昌作

小松 栄治

後藤 健

佐藤 育男

児玉 裕一

◎委員長 ○副委員長

企画産業

●企画部、農林部、経済産業部、農業委員会の所管に属する事項の審査を行います。



◎大山 利吉 (大地の会) ○三浦 常男 (市民クラブ) 秩父 博樹 (公明党) 石塚 柏 (だいせんの会)



橋本 五郎 (新政会) 鎌田 正 (大地の会) 橋村 誠 (だいせんの会)

総務民生

●総務部、市民部、会計管理者、監査委員、選挙管理委員会の所管に属する事項の審査を行います。



◎後藤 健 (大地の会) ○挽野 利恵 (公明党) 古谷 武美 (だいせんの会) 佐藤 文子 (日本共産党)



小松 栄治 (新政会) 渡邊 秀俊 (新政会) 金谷 道男 (大地の会)

建設水道

●建設部、災害復旧事務所、上下水道局の所管に属する事項の審査を行います。



◎佐藤 育男 (大地の会) ○児玉 裕一 (だいせんの会) 佐藤 隆盛 (市民クラブ)



本間 輝男 (創生会) 佐藤 清吉 (新政会) 高橋 敏英 (だいせんの会)

教育福祉

●健康福祉部、教育委員会、市立大曲病院の所管に属する事項の審査を行います。



◎高橋 徳久 (だいせんの会) ○小笠原 昌作 (新政会) 富岡 喜芳 (創生会)



藤田 和久 (日本共産党) 佐藤 芳雄 (だいせんの会) 高橋 幸晴 (大地の会)

第3回定例会

第3回定例会は、9月2日（月）から9月20日（金）までの19日間の会期で行われました。

本会議1日目に、老松市長の市政報告が行われ、市当局提出の人事案5件を同意しました。

本会議4日目に、条例案6件、単行案1件、補正予算案3件、平成30年度市立大曲病院事業会計、上水道事業会計、簡易水道事業会計および下水道事業会計の認定についての4件を、それぞれ原案可決・認定したほか、請願1件を不採択、陳情1件を採択、意見書案2件を原案可決しました。

一般質問では6人の議員が市政全般について、市当局に質問しました。



本会議第2日目

※第3回定例会の録画映像は、大仙市ホームページの議会のページでご覧いただけます。

人事案

▼人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて

【全会一致で同意】

森 京子氏（刈和野〓再推薦）
足達 隆氏（長野〓再推薦）
鈴木農夫廣氏（太田町三本扇〓再推薦）
宇野 聖子氏（太田町東今泉〓再推薦）
伊藤美佐子氏（大沢郷宿〓新規推薦）

条例案

主なもの

▼大仙市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について

【全会一致で可決】

住民基本台帳法施行令等の一部を改正する政令が公布されたことにより、氏に変更があった者の旧氏の記載に関する事項が整備されたことなどに伴い改正を行うものです。
旧氏で印鑑を登録することができるとし、証明事項から性別を削ることとしました。

▼大仙市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

【全会一致で可決】

中仙地域の豊川小学校と豊岡小学

校を廃止し、新たに統合小学校を設置するとともに、豊成中学校を中仙中学校に編入統合するため改正を行うものです。

●小学校の統合

・統合小学校の名称〓（仮称）大仙市立豊川・豊岡統合小学校
・統合小学校の位置〓大仙市豊川字下水無47番地（現豊川小学校の位置）
・統合する小学校〓大仙市立豊川小学校、豊岡小学校

●豊成中学校を中仙中学校に編入統合する。

なお、校舎は現中仙中学校校舎を利用することとする。

・施行日 令和3年4月1日

補正予算

▼令和元年度大仙市一般会計補正予算（第4号）

【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ1億7641万7千円を追加し、補正後の総額は443億3586万円となりました。

主なもの

・大仙市誕生15周年記念事業費（記念式典等開催経費）

571万7千円

第3回定例会の概要

- ・地域振興事業費（実績見込みによるものづくり応援事業補助金） 500万円
- ・子育てのための施設等利用給付費負担金（幼児教育・保育の無償化に伴う認可外保育施設等利用料無償化に係る経費） 112万8千円
- ・すこやか子育て支援金（幼児教育・保育の無償化を受けて、県と共同で実施する保育所等における副食費助成費） 614万円
- ・国内友好都市交流事業（岩手県宮古市との友好交流協定締結に係る経費） 158万6千円
- ・大綱交流サロン管理費（大綱交流サロン新築工事費等） 2126万4千円
- ・消雪施設等補助金（実績見込みによる消融雪施設整備事業補助金） 618万1千円
- ・駐車場管理運営費（大曲駅東駐車場拡張整備工事費） 2480万円
- ・治山局所防災事業費（平成30年度の大雨災害により被災した西仙北地域白坂地区の山地復旧経費） 120万6千円

▼令和元年度大仙市下水道事業会計補正予算（第1号）

【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ200万円を追加し、補正後の総額は29億4014万4千円となりました。

合併・単独浄化槽などから下水道への接続者に対して交付する補助金について、当初を上まわる申請があったため増額するものです。

請願

▼請願書（請願事項：秋田市新屋地区へのイージス・アショア配備計画に反対の意思を示してください。）

【賛成少数で不採択】

陳情

▼新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出について

【全会一致で採択】

▼田仲野地区の家屋移転希望者の家屋移転に関する陳情書

【継続審査】

第3回定例会賛否一覧

議案等名	議決結果	だいせんの会					大地の会					新政会			共産党		市民クラブ		公明党		創生会		地域住民の会					
		高橋敏英	佐藤芳雄	古谷武美	橋村誠	児玉裕一	高橋徳久	石塚柏	鎌田正	高橋幸晴	大山利吉	佐藤育男	後藤健	金谷道男	橋本五郎	小松栄治	佐藤清吉	渡邊秀俊	佐藤文字	藤田和久	佐藤隆盛	三浦常男	秩父博樹	挽野利恵	富岡喜芳	本間輝男	小笠原昌作	
請願第12号 請願書（請願事項：秋田市新屋地区へのイージス・アショア配備計画に反対の意思を示してください。）	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

賛成者は○、反対者は●とします。議長は採決に加わらないため、斜線としています。

第4回臨時会



本会議4日目 起立採択（請願第12号）

茂木隆議長逝去により空席になっていた議長の選挙を、8月16日の第4回臨時会で行いました。本会議で議員動議による指名推選となり、高橋幸晴副議長が新議長に選出されました。

また、副議長も欠員となったことから副議長の選挙を日程に追加し、高橋新議長の指名推選により、渡邊秀俊議員が新副議長に選出されました。（任期はそれぞれ10月4日まで）



石塚 柏 議員（だいせんの会）

Q 太田町生活リゾート(株)の業績はどうか

A 回復の兆しが見込めないの
で、これ以上の存続は厳しい

質問 会社を解散したいと、議会と協議があり、解散を議決した日から今日までの2年半の経営実績は。

佐藤副市長 人口減少やスキー人気の低迷による利用客の減少で、平成30年度決算では、利益剰余金がマイナス9,454万円、資本金8千万円に対し1,454万円の債務超過となっている。

質問 中里温泉・奥羽山荘・柵の湯は互いに車で8分の至近距離だが、入浴、宿泊、宴会、物品販売、レストランと同じフルセットで営業しており、3社が消耗戦をしているように見えるが。

佐藤副市長 太田町生活リゾート株式会社は運営を目的とした会社なので、解散しても温泉の施設は残る。今後は市内第三セクターの統合や専任の経営陣の確保、施設機能のコンパクト化などを視野に入れながら、それぞれが競合しないよう施設の特性を生



かした経営を継続してまいりたい。

質問 太田町生活リゾート株式会社の解散手続きと清算金はどうなるのか。また、残った取引先の支払いは、市が払えと言われる可能性があるが。

佐藤副市長 会社が解散となった場合、未払い金等について、取引先に迷惑がかからないよう、経営を担っている市が負担しなければならないと考えている。清算金は、平成30年度決算の流動負債の2,300万円に、今年度の収支を加味した金額になると見込んでいる。解散の手続きは、太田町生活リゾート株式会社に市の解散の意向を伝え、会社の取締役会の承認を経て、株主総会に諮っていく。

※その他、指定管理者制度の充実について質問しました。



藤田 和久 議員（日本共産党）

Q 空き家対策事業を強化できないか

A 体制強化を図っていく

質問 空き家の所有者が不明の場合などは、市で調査することができないか。

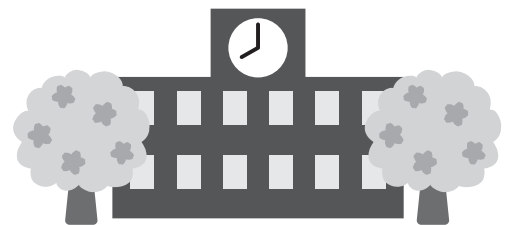
市長 「空家等対策の推進に関する特別措置法」の施行により、固定資産税情報の取得のほか、必要に応じ登記簿や戸籍の調査により、所有者等の特定に努めている。

質問 空き家、特定空き家の現状は。

市長 平成31年3月末時点で空き家の件数は1,188件、うち77件を特定空き家として認定している。平成23年度の1,415件から、解体等で件数は徐々に減少している。うち12件については、市の補助金を活用した解体となっている。

質問 空き家対策事業を速やかに推進させるため、体制強化が必要ではないか。

市長 ニーズに応じたさらなる対策と、専門性を持った対応に務めるなど、体制強化を図っていく。



◆公共施設の熱中症対策は

質問 エアコン未設置の小・中学校への設置予定は。

教育指導部長 小学校へのエアコン設置は今年度と来年度で完了予定。中学校への設置はその後となる。

質問 公共施設へのエアコン設置を急ぐべきと思うがいかがか。

総務部長 公共施設136施設のうち19施設が未設置となっている。今後、利用状況や利用者の声を勘案しながら、検討の上、設置を進めてまいりたい。

◆イージス・アショアをどう考えるか

質問 イージス・アショアの配備に県民や大仙市民が反対しているが、市長はどう考えているのか。

市長 防衛省は再調査をするとしているが、地域の安全・安心の確保と地域住民の理解を得ることが大前提であると考えている。



佐藤 隆盛 議員（市民クラブ）

Q 「大仙市スポーツ推進計画」をどのように進めるのか

A 第二次計画から、さらに踏み込んだ計画としている

質問 スポーツ施設の利用者数は。

生涯学習部長 過去10年間で平均61万人。ここ数年は減少傾向にあるが、本市の人口が減少時代に入っていることから、大きな利用者減には至っていない。

質問 今後の新設計画、施設の修理修繕状況は。

生涯学習部長 新設計画については、昨年6月議会で請願が採択された多目的人工芝グラウンドについて複合施設として広く活用できるよう、災害等の心配が少ない候補地の選定について検討している。現在ある施設についても、仙北地域テニスコートの人工芝化などの早期実現を図るとともに、計画的な補修整備を行うなど、適切で効率的な施設管理と維持に努めていく。

質問 市内の障がい者スポーツ人口は何人か。

生涯学習部長 身体障がい者を対象とした軽スポーツ教室に参加者が延べ68人。知的障がい者については、スペシャルオリンピック秋田大仙支部が主催す

るスポーツイベントが9回開催され、全体の参加者延べ303人。精神障がい者については、地域活動支援センター事業の中で週1回、各種スポーツを行っており、参加者延べ161人となっている。

質問 どのような障がい者スポーツ支援を行っているのか伺う。

生涯学習部長 体育館等の施設使用料免除のほか、聴覚障がい者のための手話通訳者や大会運営スタッフを派遣するなど支援を行っている。

◆任意団体と市の関わり方は

質問 市が事務局となっている任意団体の数および団体業務に携わる職員の年間業務量は。

西山副市長 任意団体数は現在359団体で、職員の業務量は少ないもので年3時間程度、多いもので1,600時間、合計すると年間約6万2千時間、日数にすると約8,100日分に相当し、多大な業務量となっている。

質問 任意団体への人的支援については、担当課や担当者任せにするのではなく、全庁的な見直し方針や業務協力に関する管理規定を作成すべきではないか。

西山副市長 必要性が低い団体については、来年度より自立に向けた取り組みを丁寧に説明し、理解を得た上で、段階的に事務局の移行と自立育成を進めていく。



秩父 博樹 議員（公明党）

Q 建設業の働き方改革は

A 前に進めるよう努めていく

質問 建設業の働き方改革が課題となっている現状から、先進地域の取り組みの効果の分析や調査を進めながら、公共工事の平準化に取り組む必要があると考えるがいかがか。

佐藤副市長 本市では、道路舗装の修繕等に債務負担行為を活用するとともに、工事の設計、積算を前倒しすることにより早期発注に努めるなどの取り組みを進めている。

平成30年度本市の建設工事の入札では、9月までの上半期に、件数において年間の73パーセント、金額において年間の84パーセントを発注している。これは、冬期間は除雪作業があることに加え、冬季の現場管理の難しさや工事費の掛かり増しなど、本市の実情に鑑みたものであり、地域の実情を踏まえることも重要であると認識している。

今後とも、工事の規模や地域の実情、自然条件、

週休2日の確保等による不稼働日を踏まえた適切な工期の設定等に努めながら、公共工事の平準化に取り組んでいく。

質問 公共工事の平準化に当たり、県、国との問題意識の共有をどのように図ってきたか。

佐藤副市長 発注者間の協力体制を強化することを目的として「東北地方発注者協議会」が設置されている。同協議会の下部組織として、秋田県及び各市町村を会員とする「秋田県発注者協議会」があり、情報共有の場が毎年設けられている。先般開催された会議では、「新・担い手3法」の説明及び発注の平準化を含めた働き方改革への対応等の情報提供があった。今後は、国において、改正された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」による発注関係事務の運用に関する指針も改正され、来年度からこれに基づく発注事務が開始されることから、県や他市の状況も注視しながら、公共工事の平準化に取り組んでいく。

※この他、食品ロス削減に対する意識の向上について質問しました。



佐藤 文子 議員（日本共産党）

Q 副食費、独自助成で完全無料化を

A 「子育て支援制度等検討会議」で検討

質問 幼児教育・保育無償化に伴う副食費の実費徴収について、完全無料化のため、さらに上乗せ助成を講ずるよう求める。

市長 今般設置した「子育て支援制度等検討会議」で、幼児教育・保育の無償化に伴い活用可能となる財源充当も視野に、副食費の独自助成の創設も含め、一体的かつ総合的な子育て支援制度を構築したい。

◆加齢性難聴者に補聴器購入助成を

質問 コミュニケーション障害や認知機能低下の悪化が見られる加齢性難聴者の補聴器使用率は14.4パーセントと低く、その理由に補聴器の価格が高すぎる問題がある。全国20の自治体で補聴器購入助成を実施しているが、当市でも助成制度を検討できないか。

健康福祉部長 認知症施策の一つと思われるが、まずは難聴者の実態把握に努め、国の研究機関の結果を見た上で判断したい。

◆草刈り等公園管理の現状と課題は

質問 大曲地域の住民から、公園の草が伸び、ラジオ体操などに支障があったとの苦情が寄せられた。こうしたことのないよう、定期的なパトロールや整備を求めるとともに、公園管理の現状と課題を伺う。

建設部長 大曲地域の比較的小さい公園17カ所、緑地81カ所の草刈りは、今年から市の臨時職員で実施しているが、当初の作業量の見通しが甘く迷惑をかけた。今後は定期的巡回で適正管理に努める。また、市全体の公園等127カ所の管理は市直営、業務委託、指定管理、町内住民による協力などさまざまであるが、さらに詳細な実態把握に努め、公平かつ効率的で持続可能な管理体制の構築に向け協議していく。



挽野 利恵 議員（公明党）

Q 長期休業後、体重減少する児童はいるか

A 体重減少する児童はいない

質問 全国では給食のない夏休みや長期休み後に、体重を減らしてしまう子どもたちがいるそうだが、大仙市においてはいかがか。

教育長 夏季休業後からこれまで、各校からその旨の報告は受けていない。また、市内小学生のうち約1,000人が利用している放課後児童クラブで、夏季休業中に昼食を準備することができなかった保護者はいなかったことから、本市では体重減少等による体調不良を訴えている児童生徒はいないと思われる。長期休業後は、全ての学校で児童生徒の身長および体重等の身体測定をし、それぞれの成長や体調の変化の理解につなげている。一方で、体重減少などの体調不良を訴える児童生徒の存在を把握した場合は、校内で特別委員会を立ち上げ、学級担任や養護教諭が児童生徒および保護者から状況を伺い、必要に応じて学校医に相談する。児童虐待が疑われる

場合は、健康福祉部や関係機関と連携し、慎重に対応している。

質問 休み後に不登校、またはそれに近い状態となった児童生徒に対して、どのような取り組みを行っているか。

教育長 文部科学省で公表した平成29年度における児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は、全国では14.7人、秋田県では10.8人で全国一不登校児童生徒数の少ない県であり、大仙市では7.1人と県平均を大きく下回っている。長期休業明けに新たに不登校になった児童生徒は平成30年度に15人いたが、令和元年度はゼロである。各小・中学校では、欠席の連絡があった場合、学校から家庭に連絡を入れ、連続して欠席した場合は家庭訪問するなど、長期の不登校にならないよう対応している。不登校になってしまった場合は学級担任、養護教諭や生徒指導部、スクールカウンセラーや心の相談員等と連携し、登校しやすい環境づくりに配慮している。長期の不登校になった場合は、不登校適応指導教室等を利用させるなど、不登校の解消に努めている。全ての児童生徒が笑顔で学び、安心できるよう、教育相談体制の充実を図り、支援していく。

総務民主常任委員会

令和元年7月10日～12日行政視察の概要を報告します。

○レセプトデータを活用した医療費適正化事業

広島県呉市は、まちづくりの柱に健康寿命の延伸と国保健全運営を掲げ、レセプトデータを活用したジェネリック薬品使用促進、生活習慣病予防、重篤化防止の保健事業を推進していました。具体的な取り組みとして、医療関係者との連携によるジェネリック薬品使用促進では、平成29年度には約2億8,250万円の医療費削減効果が出ておりました。また、保健指導では健診結果による要精密検査者の事後フォローや重複受診者、頻回受信者、生活習慣病放置者フォロー等の訪問保健指導を実施。重複薬履歴、併用禁忌回避医薬などの情報提供のほか、広島大学と連携した糖尿病患者の重症化(透析)予防事業を実施していました。市のコーディネートにより、医師会、薬剤師会、歯科医師会、疾病管理会社、患者が連携して健康長寿を目指す仕組みをつくり、シンポジウムや啓発事業を行い効果を上げていました。

呉市の医療費情報の詰まったレセプト点検は、経費の確認のみの発想はなく、保健指導で活用できる点

検方法を作り、データ集積・分析を行うとともに、そのデータを活用して、市民、医療関係者が一体となって健康寿命延伸、国保財政健全化に取り組んでいると感じました。

大仙市でも健康寿命の延伸と、医療費の適正化のためにも、保健と連携したレセプト活用施策をもっと進めるべきと感じました。

このほか、島根県出雲市の本庁支所機能分担について視察しましたが、紙面の関係で割愛いたします。

(委員長 金谷道男 記)



呉市議会での研修

企画産業常任委員会

去る7月30日、北海道鹿追町の環境保全センター(バイオガスプラント)を視察。ここでは、夏季は雪氷熱エネルギーでハウス内を冷却し、冬季はバイオガスプラントからの余剰熱を活用したマンゴー栽培が行われておりました。通常は夏季に出荷されるマンゴーを冬季に収穫・出荷することで付加価値の高いマンゴーとし、都市部の百貨店において高値で販売されているとのことでした。“白銀の太陽”というマンゴーのネーミングに加え、販売先(ターゲット)の選定にも成功している取り組みであると感じました。

翌31日に視察した、雪国でのマンゴー栽培の先駆者である音更町の(株)ノラワークスジャパンのサポートのもとで栽培を行っているようですが、余剰熱の活用および雪氷熱エネルギーの活用は、雪国である大仙市の今後のエネルギーの有効活用において参考としたい取り組みでした。

この他、釧路市の観光振興による経済波及調査の取り組みを研修しましたが、紙幅の都合上割愛します。

(委員長 秩父博樹 記)



鹿追町環境保全センターのマンゴー栽培視察



音更町(株)ノラワークスジャパンのマンゴー栽培ハウス

教育福祉常任委員会

去る7月23日から25日まで行政視察を行いました。

はじめに、愛知県豊田中央図書館は地下2階、地上13階の、駐車場や商業施設、能楽堂、コンサートホールがある複合施設で、3階から7階までが中央図書館となっており、蔵書数は175万冊、その他自動車資料コーナー、AVコーナー、ビデオ鑑賞コーナーなどがありました。蔵書の管理や大規模修繕は市が、建物や設備管理はホームックス(株)、運営は(株)図書館流通センターにそれぞれ指定管理をしており、年間管理料は5億5千万円とのことでした。市としては配置する職員を減らすことができ、図書館としては直営時代には不可能であった特徴的な事業も展開されていることから、施設運営を民間に任せることで、実現可能なことが増えると実感しました。

次に、岐阜県の岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」は、廃校となった旧・明德小学校を利活用した施設です。「総合相談」「子育てと教育相談」「乳幼児と発達相談」「才能伸長と自立支援」の業務がフロアごとに分かれ、組織的に

子どもや子育て世代の悩みに対応すべく、ワンストップサービスを第一とし、相談を総合的・継続的に支援するため「子ども未来部」を創設しておりました。ソフト面として、現役教師やOBが相談員として子どもたちに関わることができる環境が構築できれば、大仙市として学校との連携が一段と強化でき、児童・生徒の不登校や引きこもり、さらには大人(若者)の引きこもり対策につながると感じました。

(委員長 小松栄治 記)



豊田中央図書館での研修

建設水道常任委員会

去る7月30日に視察した広島県三原市の市営住宅の指定管理者制度導入について報告します。

導入の目的は、利用者へのサービスの向上と行政コストの削減でした。導入の結果、今までの市職員8人から、指定管理者7人・市職員3人と10人に増えましたが、コスト削減は400万円とのことでした。24時間365日対応や、修繕業務の早期対応ができたとのこと。その他、シルバーハウジングを設け、生活補助員を配置するなど独創的な取り組みをしておりました。

次に、7月31日に視察した島根県松江市の水道事業・簡易水道統合等について報告します。

内容は統合の他、水道事業の広域連携、砂防ダム等の不安定水源の転換について調査しました。平成23～25年に四つの料金体系を統一し、令和2年に経営を完全統合するとのこと。

施設は、291を209施設に統合し、規模拡大による効率を目指しておりました。現在、大仙市では簡易水道の統合に取り組んでいますが、大変に参考になる事例がありました。

(委員長 石塚 柏 記)



三原市での研修



松江市で水道事業・簡易水道統合等について学ぶ

議会運営常任委員会

8月6日、東京都町田市で、議会の活性化について研修を行いました。

町田市議会では、平成10年に本会議及び委員会の傍聴規則改正により傍聴人受付簿を廃止し、傍聴券の交付のみとすることで、市民等が傍聴に訪れやすくしておりました。また、議員全員協議会や議案説明会の原則公開をはじめ、平成13年からは、全委員が行政視察報告書を作成・提出を徹底しておりました。

また、平成22年には会議規則の改正で、議員の会議欠席届出の理由に「育児」を加え、平成22年から各常任委員会による市民団体等との懇談会の活性化や、本会議における電子表決を実施して

いました。平成24年には委員会の請願審査に議員間討議を導入し、平成27年からは政務活動費収支報告書のホームページでの公開、平成28年からは政務活動費に関する領収書のホームページでの公開や、タブレット端末の議会導入を決定しておりました。なかでも画期的であったのが、「議案のカルテ」を議会ホームページ上に掲載してあることで、これにより個々の議案の審査状況が、迅速に市民に分かりやすく報告されるようになり、非常に役に立っているということでした。

(委員長 児玉 裕一 記)



町田市で議会の活性化について学ぶ

議会の動き

7月

- 1日 議会改革推進会議
- 8日 広報広聴常任委員会
- 9日 議会運営委員会
- 10日 総務民生常任委員会「行政視察」(～12日)
- 16日 会派代表者会議
- 17日 第3回臨時会
議員全員協議会
議会運営委員会
教育福祉常任委員会 所管事務調査
広報広聴常任委員会
会派代表者会議
- 23日 教育福祉常任委員会「行政視察」(～25日)
- 26日 議会改革推進会議
- 30日 企画産業常任委員会「行政視察」(～8月1日)
建設水道常任委員会「行政視察」(～8月1日)

8月

- 2日 会派代表者会議
- 5日 議会運営委員会「行政視察」(～6日)
- 9日 議会運営委員会
会派代表者会議
大仙市・仙北市・美郷町議会議員交流会
- 16日 第4回臨時会
議会運営委員会・同協議会
議員説明会、会派代表者会議

- 22日 議会改革推進会議
- 26日 議会運営委員会
広報広聴常任委員会
- 29日 議会改革推進会議

9月

- 2日 第3回定例会(第1日)
議員全員協議会
会派代表者会議
- 11日 第3回定例会(第2日)
議会運営委員会
- 12日 第3回定例会(第3日)
決算特別委員会・同委員会正副分科会長会議
- 13日 企画産業常任委員会審査・同協議会
教育福祉常任委員会審査・所管事務調査
建設水道常任委員会審査
- 17日 総務民生常任委員会審査
建設水道常任委員会 所管事務調査
- 18日 議会運営委員会
- 20日 第3回定例会(第4日)
議員説明会
会派代表者会議
- 30日 会派代表者会議
議会運営委員会

企画産業常任委員会

補正予算案1件、陳情1件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

●地域振興事業費について

【問】きょうわジビエ研究会のメンバーと人数を教えてください。また、どういった獣の肉を処理するのか。

【答】現在のひとつくり応援事業の段階では、猟友会の方を主に、協和地域の方と、合わせて7名で構成されている。また、今回のひとつくり応援事業補助金を活用して処理加工施設を整備し、熊・鹿・猪を解体処理することとし、今後は処理肉の有効活用も含めた組織運営を検討する予定である。

●地域雇用活性化推進事業費について

【問】この事業の補助率はいくらか。また、今回設立される大仙市雇用創造協議会の事務所はどこに設けるのか。

【答】補助率は100パーセントである。また、大仙市雇用創造協議会の事務局は市役所敷地内にある車庫2階の一室を借用し、設ける予定である。

●観光費補助金について

【問】観光物産協会の事務局長交代に伴う引継ぎのための人件費とあるが、1年間2人体制になるということか。これにかかる人件費はいくらか。その負担は全部市で負担していかなければいけないのか。

【答】観光物産協会の事務については、通常的一般事務のほかに、各イベント会場等での販売業務がある。特に、販売業務については、物販の仕入れから現地での調整、それから販売したものの売り上げ処理など、多岐にわたり、その部分の多くを個人に頼っていたため、今回退職した場合、支障があるということで要望があったもので、人件費については343万3千円、これの全額を市で負担することになる。

【問】一般的に考えていかがかと思う。今後はよく考慮していただきたい。

【答】今後の新たな雇用や昇給に関しては、人事評価を行ってもらいながら、事前に報告いただき、予算を組み立てていくという約束をしている。

総務民生常任委員会

条例案3件、単行案1件、請願1件、陳情1件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

●成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について

【問】これまで成年被後見人は、地方公務員や消防団員になることができたのか。

【答】これまでは地方公務員法のなかで、成年被後見人と被保佐人はなることができなかった。今回改正により、なれることになる。

●大仙市印鑑条例の一部を改正する条例の制定について

【問】印鑑登録で性別を削るとあるが、改正後の条例の登録事項に性別があるのはどうしてか。

【答】印鑑登録時には性別の登録は必要だが、印鑑登録証明書の証明事項からは削るということである。

●請願第12号、「請願書（請願事項：秋田市新屋地区へのイージス・アショア配備計画に反対の意思を示してください）」は、「日本全体のことを考えるとイージス・アショア配備計画には賛成である。ただ、現在の状況から新屋地区への配備については疑問である。防衛大臣も変わりゼロベースでの再調査を行っていることや、県議会、秋田市議会で同様の請願・陳情の審査状況から継続審査すべき」との意見と「願意妥当、市民目線で考えると危険なものをつくるべきでないことから採択すべき」との意見があり、挙手採決の結果、継続審査は賛成少数により否決され、賛成多数により、採択と決しました。

●陳情第31号、「田仲野地区の家屋移転希望者の家屋移転に関する陳情書」は、現地確認や関係者からの聞き取り等調査の必要があることから継続審査としました。

建設水道常任委員会

条例案1件、補正予算案3件、決算認定3件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

一般会計補正予算（第4号）

●**駐車場管理運営費の審査では、当局から「大曲駅東駐車場は新幹線利用者の需要が多く、週末やJRのキャンペーン時には満車となっている。そこで駐車場を84台から136台に拡張するため、予算を2,480万円追加し、3,051万円としたい」との説明がありました。**

【問】**駅東周辺の交通安全の白線(一時停止線等)の表示に、十分な配慮が必要ではないか。**

【答】警察と協議した上で対処したい。

●**住宅リフォーム支援事業費の審査では、当局から「市民の要望が多い補助事業で、環境対策等工事、克雪対策工事、耐震化工事、子育て世帯改修工事がある。今年度条件を緩和した『子育て世帯改修工事』の申請件数が増え、予算を1,500万円増額し、6,508万円としたい」との説明がありました。**

委員からは、事業の継続について「市民の要望だけでなく、地元経済に対する波及効果の調査が必要ではないか」との指摘がありました。

●**災害危険区域内住宅移転促進事業費(新規予算)について**

【問】**この予算は、災害危険区域にある建物を移転する必要が生じた場合、移転する建物の調査のための新規予算だが、今後、同じような災害が生じた場合、それも対象になるのか。**

【答】今回の予算措置は、雄物川河川楸特事業により実施される協和地域の岩瀬・湯野沢地区での輪中堤整備に伴い、その堤外地に住居が残る状態となるために危険区域に指定してものである。今後、新たに同様の区域が発生した場合、危険度や国等の予算措置を判断した上で、区域の指定と予算措置となる。

教育福祉常任委員会

条例案2件、補正予算案1件、決算認定1件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

補正予算関連

●**生活保護事務費**

【問】**生活保護開始に伴う調査として、保険会社に対して行う調査とはどのようなものか、そして今回どのような変更があるのか。**

【答】生活保護申請を受理すると、その対象者の資産状況について生活保護法第29条に基づく調査を行うこととなり、その際に生命保険会社に対しては、対象者が生命保険に加入しているかどうか、書面を送付して調査している。これまで各福祉事務所が導入しているシステムによって、ばらつきがあった様式を、生命保険会社の要請もあり、今回のシステム改修により統一することとなったものである。

決算認定関連

●**平成30年度市立大曲病院事業会計決算の認定について、次のように決算審査意見がありました。**

1 医業損益が赤字であり、これに一般会計等からの負担によって経常損益を黒字としている状況が続いていることから、今後は財政の支援を受けながらも損益の減少に努められたい。

2 医業未収金について、「個人未収金」については、段階的に件数及び残高ともに減少し、努力されている姿が認められており、今後とも管理強化の推進に努められたい。



市政懇談会でいただいたご意見・ご要望の回答について

6月24日から28日までに開催した、大仙市議会「市政懇談会」の回答についてお知らせいたします。その他いただいたご要望等については、各常任委員会で協議し、市長へも文書で通知いたします。

また、市民の皆様から開催のご要望があれば、いつでも皆様のところへ出向きますので、お知らせください。

No.	地域	いただいたご意見	回 答
1	協和地域	河川改修が進んでいるが、今年は降雨が少なく、水田用水のポンプアップに苦勞している。	今年は雨が少なく特別な年かもしれないが、県との協議が必要である。
2		地域の活性化のためにも、地域枠予算は減らさないでほしい。	支所の地域枠予算については積極的な考えを持っている。増やすような努力をしていきたい。
3		空き家対策は個人で対応することは非常に難しい。議会ではどのような対応をしていくのか。	個人対応は無理だと思う。補助金の増額も考えているが、集落での作業を行う場合にも日当を出すなどしなければならぬのではないかと。危険度に応じて計画性を持っていかねばいけないと思う。歩みは遅いが少しずつ進んでいる。
4		高齢化が進み、高齢者の事故も増え、免許の返納もあるが、今後の地域公共交通をどのように考えているのか。	循環バスや乗り合いタクシーなど地域に応じて対応している。要望があれば市では対応していただけたらと思う。
5		災害時のために、ヘリポートの設置ができないか。	協和地域内にヘリポートとして造られたものはない。学校の校庭やグラウンド、スキー場など大きな広場をその都度利用している。消防署と連携して行っている。
6		議員の報酬はいくらか。800万円以上もらっていると思った。	年間680万円くらい。その中から税金、国民年金、国民健康保険などの経費が引かれる。
7	大曲地域 (はびねす大仙・大川西根・藤本)	上水道の送水管の更新状況はどのようになっているのか。	老朽化の著しいところについては、年次計画で布設替えしていく計画である。
8		上水道事業を全て民間に委託する計画はあるのか。	今現在、メーター検針等は外部委託している。市長も全て委託するのは危険という話もしており、今後も行政が運営していくと思う。
9		大曲の花火の昼の部の時間を少しもらい、秋田の竿灯や男鹿のなまはげ等の演芸を入れて、それが終わってから夜の部の花火をあげる「花火まつり」を行ってはどうか。	貴重なご意見として伺っておく。
10	ふるさと納税について、どれくらい集まって、どのように使われているのか教えてください。	寄付の件数は年々増えており、平成28年度で105件、29年度で473件、30年度で2,105件で累計3,071件。金額にすると平成30年度は8,360万5千円であった。使い道は、当局側から予算であがってきたものを企画産業常任委員会で審議することになる。	
11	神岡地域	中川原運動公園等の水害対策について、予算が付いていないようだが、進展状況はどうなっているのか。国交省に行くこともあると思うが、堤防のかさ上げや決壊しないように強化することを、議員からも強く伝えてほしい。	国交省との折衝活動など、議会としても進めていきたい。地元代議士もいるので、強く要望する。
12		桜のてんぐ巣病対策に力を入れてほしい。	当局をお願いしていく。神岡では桜の会等で順次実施している。
13		重点施策の防災対策のうち、内水対策はどこに予算が付いたのか。間倉築堤完成後の内水排水ポンプの設置が重要だが、降水量をどのように想定するか。常設ポンプの設置を求める。	支所車庫に移動式の排水ポンプ2台と発電機を用意している。県に対し常設ポンプ設置の要望を続けている。
14	地域枠予算の使い道に制約があり、十分活用できないようだ。各地域独特の事業をやるよう柔軟な使い方ができるようにしてほしい。	支所長連絡会でも同様の要望をしており、ガイドラインの見直し等が進められているようである。	
15	地域枠予算は他地域ではどのように使われているのか。	さまざまな地域行事等に使われている。29年度は、地域枠予算の活用率が84.1%。承認件数200件を目標としている。	
16	議員報酬はもっと上げてよいと思うが、定数は多いと思う。	現在、議会改革推進会議において検討中であり、意見として承っております。	
17	イー・アショアの請願は、大仙市には出ていないか。	今のところ出ていない。※8/22に反対の請願書1件受理しました。	
18	神岡地域に議員はいないが、神岡の諸行事に議員も参加してほしい。	案内のある行事には参加している。	



No.	地域	いただいたご意見	回 答
19	南外地域	バイパスが新しくできたことによって、何か所か危険を伴う交差点ができた。新設道路(落合橋の所)はバスが通るには狭い。	取り付け道路については、陳情書を提出し、地域振興局へ直してもらうよう要望したところ、夏ごろまでには直すとの回答を得ている。※現在、工事中であり年内には完成する予定です。
20		支所の窓口相談にいつでも、すぐにお金がないからと言われる。もう少し市民の話を聞いて、優先順位を付けて事業を行ってほしい。	どこの支所も同じような傾向にあると思う。今後、気を付けていきたいと思う。
21	西仙北地域	イーゼス・アシアについて、大仙市ではどのように考えているのか。	大仙市に請願は出ておらず、当議会では協議していないため、現時点で申し上げることはできない。 ※8/22に反対の請願書を受理し、大仙市議会では不採択となりました。
22		上下水道事業を独立させることはできないか。	昨年からは会計を独立させ、独立採算制をとっている。上水道は黒字、下水道は赤字となっており、成果を出せるように努力していく。
23		堤防の水門を閉じられると水がたまる一方であり、水はけ対策をお願いしたい。	大曲地区では10カ所排水ポンプを設置した。刈和野地区でも地元議員が中心となり要望していく。
24		JR刈和野駅の大綱展示場について、今後の方向性はどのようなものか。	当面は残すことになったと聞いている。綱も建物も限界になる前に残せるような方策を取りたいと考えている。
25		新西仙北公民館の建設状況が何も分からない。要望した事に対する回答ももらっていない。公表してほしい。	令和2年に完成し、10月1日開館予定である。今後、広報等で公表する。
26	中仙地域	市の広報が月1回になったのはなぜか。	市全体の予算が圧縮されてきており、そのため月1回になったと記憶している。
27		防災ラジオを全戸配布できないか。屋外にいるときなど、一番効果的なのは防災無線だと思うが。	個人的には全戸配布すべきと思う。情報の伝達はいろいろな方法でやるべきだが、防災無線を市全体でやると莫大な金額になり、メンテナンス料も高額である。
28		玉川が氾濫すれば、中仙の町中全部が浸水し、太田地域まで避難が必要になるかもしれない。市全体の中で検討し、最悪の場合の避難場所を示してもらいたい。	隣接支所間や遠方支所からの救援等は支所長間で話し合っている。災害の種類によっては、指定された避難場所が危険になることも想定されるので、今後調査していく。
29		大仙市は花火をベースにして大きく事業を展開しているが、どのように見ているか。	年4回に花火大会を増やしたことで、観光客がなるべく宿泊し、お金を落としてもらう方向性は、徐々に成果が出てきていると思う。また、西仙北地域で、花火の原料になるマツ炭生産が始まるなど、大曲地域だけでなく、大仙市全体に産業の裾野や経済的波及効果を広げていければと考えている。
30		子どもの数が少ないのは、若い夫婦の方々の仕事が忙しすぎるからである。個別ではなく全体的に子どもの数を増やす方策はないか。	一番の理由は経済的理由なので、景気を良くしなければならない。また大仙市は教育に力を入れているので、若い人たちに大仙市で教育を受けさせたいと思ってもらえるようPRしていくことも一つの方策と考える。
31	都会の中学生に、大仙市でしかできないことを体験させることができないか。	廃校舎を利用するなど、まずグリーンツーリズムをしっかりやることで、若い人たちがこちらへ来てくれると思う。また、都会の小中学生を呼んで集中的に補習授業を行うなど、学力向上のために大仙市が貢献できることがあるのではないかと。	
32	太田地域	幹線道路をつなぎ、集落までくる道路の交通量も増えたが、狭い道路のため往来が危険であり、地元住民で道路拡幅の陳情をしたことがある。用地測量は終了したようだが、その後、買取などの進展が見られない。	交通量等調査の上で対応を検討したい。また、現地ではほ場整備の計画があり、受益者から道路拡幅等提案してみてもどうか。
33		財政が厳しいなら、最大の観光事業である「大曲の花火」の観覧者から100円程度の協力を金を出してもらおうなど、市として財源を作る施策を考えた方がいいのでは。	観光振興からイベント民泊や、また、地域の観光資源を生かして地域にお金を落としてもらう工夫をしている。なかなか難しい面もあるが、あの手この手を考えながら進めていきたい。
34		学校統合について、他地域の例と太田地域はどうなっているのかを教えてください。	中仙地域の例と太田地域の状況を説明。太田地域では、認定こども園のPTA役員等からの意見を聞くなどし、現状を把握したいと思っている。
35		市としての子育て、少子化対策はどうなっているのか。また、人口問題に対してどのような取り組みをしているのか。	経済的な問題から少子化が進む。その対策を国・県・市一体で対応していかないと考える。
36	仙北地域	窪堰川の洪水氾濫対策はどうなっているのか。	合併して3年目に1度ポンプを設置しているが、それでも足りないとのことから、今回、またポンプを設置することになり、9月いっぱい完成する予定である。 ※9/20に完成しました。
37		田茂木橋から丸子大橋まで、水位がどれだけになれば氾濫浸水となるのか。分かるようなものを示してほしい。	会場の壁に貼ってある「ハザードマップ」を指して、これであると示した。
38		川福橋(仙北自動車学校の所)から大曲駅方面への道路を新設する件はどうなったのか。	土地の地権者の関係で困難な状況である。別ルートも調べながら実現できるように頑張っていきたい。



小学生議場見学会

8月7日・8日、小学生を対象に議場見学会を行い、各施設や議員の仕事について学びました。



議長交際費 (7月1日～9月30日)

項目	件数	金額
予算額		900,000円
既支出額	40件	250,346円
今回支出額	25件	171,567円
内訳	弔慰	0件 0円
	慶祝	7件 58,500円
	協賛	18件 113,067円
予算残額		478,087円

決算特別委員会審査日程

- 11月5日(火) 全体会(審査方法、日程等の確認) 分科会審査
- 11月6日(水) 分科会審査
- 11月7日(木) 分科会審査
- 11月8日(金) 分科会審査・事務調整
- 11月11日(月) 全体会(分科会会長報告、全体審査)

12月定例会日程のお知らせ

- 11月26日(火) 本会議第1日(市政報告、議案等上程)
- 12月5日(木) 本会議第2日(一般質問)
- 12月6日(金) 本会議第3日 (一般質問・議案質疑、委員会付託)
- 12月9日(月)・10日(火) 常任委員会審査
- 12月16日(月) 本会議第4日 (委員長報告、質疑、討論、表決)

※現時点での予定であり、変更される場合があります。変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。



編集後記

今年も暑い夏でした。世界の気温は産業革命前と比べると1・1度上昇しているそう、近年の猛暑や豪雨は地球温暖化の影響でしょうか。甚大な被害を出した台風19号も、この影響ではないかといわれております。地球温暖化の原因である二酸化炭素を少しでも減らそうと各国が取り組んでいますが、使わない電気を消したり、歩ける距離であれば自動車の使用を控えたり、食品ロスを減らしてゴミの削減をするなど、家庭からも地球環境を守っていく取り組みをしていきたいものです。

さて、暑い夏が終わり熱くなったのがラグビーワールドカップ。私も、わかラグビーファンになり、ルールを教えてもらいながら盛り上がりました。スポーツは国境を越え、人々に感動を与えます。来年は東京オリンピックがあり、また暑い夏になりそうです。

10月より広報広聴常任委員会が、新たな委員構成となりスタートしました。「チーム大仙市議会」の熱い思いがしっかりと伝わる紙面を目指してまいります。また、8月26日より開始したフェイスブックで、議会の動向を発信してまいります。2年間よろしくお願いたします。

(委員長 挽野 利恵 記)

広報広聴常任委員会

- 委員長 挽野 利恵
- 副委員長 三浦 常男
- 委員 佐藤 隆盛
- 石塚 柏
- 藤田 和久
- 小笠原昌作
- 小松 栄治
- 後藤 健
- 佐藤 育男
- 児玉 裕一

